



70年のあゆみ

since 1953

東洋クッション株式会社



70年のあゆみ

since 1953

東洋クッション株式会社

創立70周年記念誌 発刊のごあいさつ



代表取締役社長
白石美千代

1953（昭和28）年4月11日、人毛加工の地場産業として栄えていた大府市に毛くずを原料としたヘアロック製造会社として東洋クッション株式会社を設立致しました。1953年は、イギリスのエリザベス女王の戴冠式がロンドン・ウェストミンスター寺院で行われた年です。2023年、エリザベス女王の死去によりチャールズ国王の戴冠式が同じくウェストミンスター寺院にて執り行われました。私達の会社も今年2023年に創立70周年を迎えることが出来ました。戦後の復興期に創業し、日本経済の成長期と共に会社は、創業者、各先輩方の努力で、大きく発展して行きました。現在でも主力製品である土木資材のパームロック、化繊ロック、フィルター資材のサランロック、化繊ロックは、この時期に開発され、大いに売上を伸ばしました。

後の金融危機、東日本大震災という未曾有の自然災害を経験しました。昨今は、新型コロナウイルス感染対策に追われる日々を過ごしています。また、ロシアのウクライナ侵攻による原料高、エネルギー問題に直面しています。

今、世界の多様化が進み、人々の価値観が変わる節目かもしれません。

2002年を第2創業期と位置付け、未来に向けて経営理念「信頼感とチャレンジで、国土と生活を守る製品を提供するものづくり集団」を制定しました。

自然豊かな日本では、地球の温暖化により河川の決壊等、自然災害が頻繁に起こるようになりました。今後も、これらの自然災害から「国土と生活を守る」土木資材（パームロック、化繊ロック、フェルト資材）を提供し続ける会社を目指します。

また、2020年に、SDGsの取り組みを宣言しました。地球規模で、CO₂削減を含む環境問題がクローズアップされています。

私達のフィルター資材（サランロック、化繊ロック）が地球のどこかで役立つ日が来るよう、製品規格を確立して、製造条件を守り、今後も「信頼されるものづくり集団」を目指して行きます。

皆さまの一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

創立70周年にあたり、「社史」の発刊のごあいさつと致します。

2023年9月



経営理念

我々は、信頼感とチャレンジで
国土と生活を守る製品を
提供するものづくり集団を目指す

* * *

品質方針

我々は顧客第一主義に徹し
常に顧客満足を得るための
品質システムを構築し、
信頼される製品を提供するよう努力する

創立70周年記念式典







TOYO 東洋クッションの日常——
確かな技術と信頼される製品で
社会に貢献







TOYO 東洋クッションの日常——
安全・安心の体制づくり



目次

■ 創立70周年記念誌 発刊のごあいさつ 代表取締役社長 白石美千代	2
■ 経営理念 品質方針	3
■ 口絵 創立70周年記念式典 東洋クッションの日常	4 6

歴史編 第1部 前50年史

CHAPTER 1 会社創業 1953(昭和28)年-1955(昭和30)年	
■ 10名の発起人からスタート	10
■ マットレス製造開始	10
CHAPTER 2 「トーヨーマットレス」の成功 1956(昭和31)年-1964(昭和39)年	
■ 百貨店で即売会を開催	11
■ 業績向上をもたらした新システムの導入	12
■ 創立10周年、商標マーク登録	13
CHAPTER 3 多様化する新製品の開発 1965(昭和40)年-1986(昭和61)年	
■ 五代目社長 深谷佐一の改革	13
■ 「ステラシート」、「サランロック」の開発	14
■ 大府本社工場移転と北海道工場完成	14
■ 25周年記念式典を機に「社内憲章」を制定	15
■ 創立30周年式典	15
CHAPTER 4 国内外の生産拠点の充実 1987(昭和62)年-2003(平成15)年	
■ 新経営陣のもと本社第一工場の完成	16
■ エステルロックの開発	16
■ 国内外の生産拠点の整備	16
■ IIAN化繊 IIAL エステルライン完成	17
■ 高品質が証明された「ES-アルファシート」	17
■ 社長交代と北海道工場でのステラフェルトの製造開始	18
■ ISO9001取得	18
COLUMN 1 3H作戦を展開	18
■ ランカ工場へ研修訪問	19
■ スリランカ中小企業経営者の訪問、そして50周年へ	19
COLUMN 2 社歌誕生	19

歴史編 第2部 近20年のあゆみ

CHAPTER 5 転換期を迎えて 2004(平成16)年-2006(平成18)年	
■ ステラフェルト、シャイニングパッドの生産拡大	20
■ 中小企業再生支援協議会の経営サポート	20
COLUMN 3 中部産業連盟による経営改善指導	20

CHAPTER 6 安全向上と生産体制充実化 2007(平成19)年-2012(平成24)年	
■ 全体安全研修・ライン会議スタート	21
■ 貫流ボイラー・ニードルパンチ機新設	21
■ (株)東伸が東伸工場になる	22

CHAPTER 7 新体制で新たな飛躍へ 2013(平成25)年-2016(平成28)年	
■ 九代目社長就任	22
■ 引張試験機の導入と生産ラインの強化	22
■ 新分野「壁面緑化」の生産を開始	23
■ 北海道台風被害による河川復旧工事に ステラフェルトが大活躍	23
COLUMN 4 日建工学50周年式典に出席	23

CHAPTER 8 未来に向けた経営基盤 — 職場環境の改革 2017(平成29)年-2019(平成31/令和元)年	
■ 「健康宣言」の取り組み開始	24
■ 工場環境の改善	24
■ 持ち株会社体制と名南経営の経営指導	25

CHAPTER 9 未来に向けたデジタル化の推進 2020(令和2)年-2023(令和5)年	
■ コロナ禍で始まった本社・北海道工場間の Web会議	26
■ 原料輸入管理システムの改革、計量システムの導入	26
■ 建物・設備の新設・改修を継続	26
■ SDGs達成に向けた取り組みを宣言	27
■ 創立70周年を迎える	27

企画編

■ 創立70周年「ポストコロナ」に向けて さあ、あなたはどう行動しますか?	28
■ 未来に向けた取り組み	30

資料編

■ 会社概要	31
■ 工場紹介	32
■ 年表	33

凡例

1. 本書の構成は、口絵、歴史編、企画編、資料編とした。
2. 本書の記述は、原則として2023年4月までとした。
3. 用字用語は常用漢字、原則として現代かなづかいとした。
4. 会社名は当時の名称を用い、後に変更された場合は、その名称を()内に付記した。
5. 人名、会社名は敬称を略した。
6. 年号は西暦を基本とし、適宜、和暦を併記した。

第1部

前50年史

CHAPTER 1

会社創業

1953(昭和28)年－1955(昭和30)年

■ 10名の発起人からスタート

当社の創業者で初代社長の加藤錠太郎は1906(明治39)年、現在の愛知県東海市にあたる横須賀町加木屋地区で生を受けた。当地は、明治時代半ばから人毛加工業発祥の地として有名で、大府町(現：大府市)吉田地区とともに、日本髪を結う時に地髪にそえる「かもじ」の生産で栄えていた。

1925(大正14)年、大阪に奉公に出ている錠太郎は19歳で一旗揚げることを夢見て上海に渡る。そこで良質の人毛を日本の人毛加工業者へ輸出し成功する。ところがその後、日本は太平洋戦争に突入。錠太郎は日本の敗戦が色濃くなる1945(昭和20)年に妻の実家がある長崎に戻るが、同年広島に続き、8月9日には長崎にも原爆が投下され家屋敷を失うことになる。その6日後の8月15日、日本は終戦を迎えた。

仕方なく故郷の横須賀町に帰ってきた錠太郎であったが、そこで日本で唯一ロック材を製造している東和ロック工業株式会社に人毛の毛くずが売られていることを知る。これに目を付けた錠太郎は自分たちの手でロック材を作れないか人毛業者に提案。錠太郎の提案に賛同した10人が発起人となり、1953(昭和28)年4月11日に資本金200万円で当社「東洋クッション株式会社」が誕生した。東海道線大府駅前に約1,238㎡の土地を購入。以前釘工場であった古工場と事務所を自分たちの手で改良し、機械も建物もすべて手作りでのスタートであった。

■ マットレス製造開始

会社を設立したもののロックの製造に苦勞し、最初はまともに製品を作ることさえできなかった。試行錯誤の末、ヘアーロック第一号が完成したのは、会社創業から6ヵ月以上が経った頃だった。ところがその矢先、疲労が重なったのか、錠太郎が突然他界してしまう。その後、二代目社長が就任したものの長くは続かず、一方で米軍への入札などに



横須賀町加木屋地区



上海へ渡る直前の19歳の加藤錠太郎



当社初のマットレス

追われる日々が続いた。

舵取りがない中での事業継続だったが、思わぬところで道が拓ける。ヘアロックは当初、朝鮮戦争で駐留していた米軍の機材の梱包資材として採用されたが、戦後、生活様式の洋風化に対応した商品に商機があると考えた当社は、1953（昭和28）年12月にヘアロックを中材とした和室用マットレスを開発した。当時のほとんどの日本人はマットレスを知らなかったが、「綿より軽く、暖かで気持ち良く、健康と安眠が得られます」のキャッチコピーと「打ち直しのいらぬふとん」の説明を付け、「トーヨーマットレス」のブランド名で販売を開始した。これが戦後、洋風寝具に馴染みのなかった当時、売れに売れたのである。

これに勢いを得た当社は、1954（昭和29）年8月に、加藤錠太郎の長男の時二が三代目社長に就任し会社を次のステップに引っ張っていく。その経営手腕は質実剛健で、社員から絶大な信頼を得た。

社長に就任した8月には、浦和や仙台に代理店を設置し、翌9月には資本金を400万円に増資。10月にはヘアロックを使用した和室用マットレスの製造・販売を本格化すると、翌1955（昭和30）年には米軍向けのヘアロックを受注、時二は当社発展の礎を築いた。

社員への気配りも一流で、1955（昭和30）年には当時まだ珍しい社員旅行を実施。営業用のトヨペットに乗って、岐阜県八百津へ松茸狩りに行くなど社員の日頃の苦勞を労った。

CHAPTER 2

「トーヨーマットレス」の成功

1956（昭和31）年－1964（昭和39）年

■百貨店で即売会を開催

名古屋栄にあったオリエンタル中村百貨店（現：名古屋栄三越）が1956（昭和31）年に増築開店すると、同年4月に就任した四代目社長 久野善式のもと、トーヨーマットレスの即売会を開催し好評を博した。その時に来場者に配った記念品のしおりは子どもたちに大人気で、トーヨーマットレスのイメージアップに大きく貢献した。

これを機に、当社は1957（昭和32）年6月、「トーヨーマットレス」を商標登録し、同製品のブランド価値をさらに高めることに成功する。



「トーヨーマットレス」のブランド名で販売開始した当時の広告



三代目社長に就任した加藤時二
(向かって左側)



四代目社長に就任した久野善式
(向かって左側)



有名百貨店に展示された当社のマットレス



すべてが手仕事の縫い綴り作業



当社のテレビCM



共和新工場



当社を訪問したオーストリアDOA社の技師

この主力製品の和室用マットレスはすべてがていねいな手作業であったため、一日の生産台数が10人でわずか15台と、今では考えられない生産効率であった。そのため、当時の教員の初任給が1万円だったにもかかわらず、マットレスの定価は4,000円と高価だったが、生活の洋風化を受けてデパートなどで飛ぶように売れていった。また、オールパイプ製の分割ベッドを他社に先駆けて開発し、「昼は応接セット、夜はベッド」のキャッチフレーズで販売。分割ベッド全盛時代の先駆けとなった。

このパイプベッド・分割ベッドの販売も好調であったため、当社は販売強化を目的に、販売部門を分離独立、1958(昭和33)年2月に「東洋マットレス株式会社」を設立した。そして、当社の社名をより多くの人に知ってもらうために、各家庭に急速に普及していったテレビのCMを開始した。

さらに翌1959(昭和34)年4月には電気マットレスの開発に成功し、販売を開始した。

■業績向上をもたらした新システムの導入

新製品を次々に開発し業績を伸ばしていた当社であったが、そこに自然災害が襲う。1959(昭和34)年9月26日に襲来した伊勢湾台風は、当社がある大府にも大きな被害をもたらした。多くの社員宅が被災し、大府工場も半壊状態になった。この危機的状態のなか、社員総出で助け合いながら復旧作業にあたり、1ヵ月後には社員宅と工場は修復された。

伊勢湾台風は東海地方の産業に甚大な被害をもたらしたが、当社の勢いが止まることはなかった。大府駅前にあった本社工場は拡張続きで、敷地内いっばいに建物が建ち並ぶようになった。そこで、1960(昭和35)年3月に大府市共和地内に新工場用地を購入。翌年11月に新工場は完成した。

さらに1961(昭和36)年3月には、生産効率を高めるために、オーストリアのDOA社から日本で2号機目となるパームロック製造機を購入した。ヤシの実の繊維を原料にして、主にスプリングのバネあて材に使われるパームロックをオートメーションで製造するこの「ロックオートメーションシステムマシン」は、当時としては画期的な製造機であった。これによって、拡大を続けるニーズに応えられるようになった。

翌1962(昭和37)年には、後年、当社の主力製品となり、のちのサラロックにつながる「化繊ロック」の開発に成功。3月に販売を開

始した。また、1964（昭和39）年には名古屋スチール株式会社を吸収合併しパールチェアー、テレビチェアーの製造販売を開始した。

■ 創立10周年、商標マーク登録

創立10周年を迎えた1963（昭和38）年に、それまで使用してきたマークを正式商標として登録した。このマークの、三つの輪のつながりは、社員全員が和を大切にし、ともに手を携えて歩いていく団結の姿勢を象徴している。三つのカールはロックをシンボライズしたもので、設立当初に発起人全員で決めたものである。また、TOYOの文字は、外国生活が長かった初代社長の発案によるものであった。

CHAPTER 3

多様化する新製品の開発

1965（昭和40）年－1986（昭和61）年

■ 五代目社長 深谷佐一の改革

1965（昭和40）年3月、四代目社長 久野善武の死去により、東洋マットレスの社長であった深谷佐一（旧姓：加藤、創業者の四男）が五代目社長に就任した。深谷は、これ以降、1988（昭和63）年に死去するまで、社員の先頭に立ち、様々な変革を推進し当社を牽引していく。

同3月には東洋マットレスと当社（東洋クッション）を対等合併させ、東洋マットレスを解散。1966（昭和41）年9月には合併による増資400万円を加え、経営基盤を安定すべく資本金を2,000万円にした。また、当社の主力製品であったベッドの商標「トーヨーマットレス」を「トーヨーベッド」に変更^{※1}。1967（昭和42）年3月には自動車用座席シートクッション材の製造も開始し、当社製品の他分野での用途開発をしていく。

さらに新しい機械の導入などによって手狭になった工場の増設を開始。1968（昭和43）年11月に増設工場は完成し、敷地内に本社事務所を建設し営業本部を移転させた。

また、「会社と社員、家族との結びつきをもっと親密にさせたい」という思いから、1969（昭和44）年、社内報「オリエントとうよう」を創刊した。



DOA社の商標



創立10周年に正式登録した商標マーク

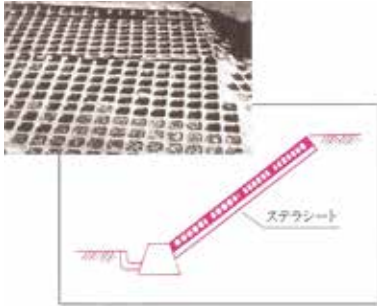


五代目社長に就任した深谷佐一



新ブランド名「トーヨーベッド」を冠した宣伝カー

※1：1974年に「マリオンベッド」に商標変更。



当社が満を持して開発に成功した「ステラシート」



旭ダウとの提携で製造を始めた「サランロック」製品カタログ



共和敷地内に移転した大府本社工場



北海道工場

■「ステラシート」、「サランロック」の開発

ベッド用パームロックに続く新たな分野の開発にも積極的な取り組みを開始した。

1969（昭和44）年2月に土木用吸い出し防止材の販売を始めると、翌1970（昭和45）年は、日建工学株式会社の呼びかけで研究を続けていた土木資材「ステラシート」の開発に成功する。河川の吸出防止材やトンネル内暗渠排水用にロック材を使用するもので、当社にとって新たな分野への進出のきっかけとなる歴史的な製品となった。

また1969（昭和44）年には、別会社としてパームロックを使った最高級ベッドなどを製造してきた東洋ベッド株式会社は、事務および生産部門の合理化を目的として、当社（東洋クッション）と合併。翌1970（昭和45）年1月に合併により資本金を2,600万円に増資し、当社のベッド部門および事業基盤を強化した。

さらに1971（昭和46）年1月から空調用フィルターなどに使用される細繊維「サランロック」の生産を開始した。これは戦前からロック製品を製造していた東和ロック工業が倒産し、同社に「サランロック」を製造委託していた旭ダウ株式会社（現：旭化成株式会社）が後継会社を探していたところ、「サランロック」同等の独自の製品を製造していた当社の優れた生産管理能力が評価されたもので、これを機に当社は旭ダウと提携した。なお太繊維のモノフィラメントは、株式会社関根産業を設立し同社で生産を行うことにした。

■大府本社工場移転と北海道工場完成

大府駅前にあった大府本社工場が、駅前都市区画整理事業の該当地となったために、1972（昭和47）年5月に、約2km北の共和地内に本社工場を移転した。移転に伴い、同年6月に、本社所在地を大府市追分町二丁目1番地に移した。当時、畑ばかりの中に建つ当社の大きな工場は、さながら将来の発展を予感させるものであった。

そしてこの予感は7年後の1979（昭和54）年6月の北海道工場の完成で現実になる。本社からの製品搬送を合理化するために、北海道で需要が高い土木工事用マットの現地生産拠点として、同工場を開設した。場所は北海道空知郡栗沢町（現：岩見沢市栗沢町）の地域振興整備公団栗沢工業団地内で、7,000㎡の敷地に鉄骨平屋建て約1,500㎡の工場が建った。同工場には、当社4機目となるオーストリア・

DOA社製のロックオートメーションマシンを導入した。

■ 25周年記念式典を機に「社内憲章」を制定

1978（昭和53）年4月に、三重県鳥羽シーサイドホテルで創立25周年記念式典を開催した。勤続15年以上の社員を全員表彰して、会社とともに歩んだ苦労や喜びを語り合ったほか、懇親会には株主や得意先の方々も参加し、大いに盛り上がった。

さらに25周年を記念し、社内憲章制定委員会を設置し、社員の好きな言葉を広く募集した。その中から5つの言葉を社内憲章として制定し、朝礼や会議の始まりに心を込めて唱和し、気持ちを一つにすることをともに誓っている。

また、25周年を機に会社組織を見直し、リーダー制度を導入した。それまでの課長・部長を廃止し、職場単位で選出されたリーダー・サブリーダーが経営者と従業員のパイプ役となる。組織をフラット化することで連絡等がスピーディーに伝わるようになり、作業効率の向上や団結心の高まりにつながっていった。

そして、1981（昭和56）年にTYCと木曜会がスタートした。TYCはリーダー・サブリーダーによって構成される社内企画委員会の総称で、「ムラ・ムリ・ムダ」の3ム追放運動や、生産・事務の合理化、製品・材料の規格統一などを推進するための組織である。木曜会は、月に一度、夕食をともにしながら、毎回決められたテーマについて真剣な討議を行った。こうした取り組みは社員の向上心を高め、当社発展の推進力となった。

■ 創立30周年式典

1983（昭和58）年4月には、長良川湖畔の岐阜グランドホテルにおいて、創立30周年式典を開催した。創立30周年を記念して、「力強い花の生命力に、新たなる歴史を刻む東洋を託して」という趣旨から、社花・社木を決定した。社内募集をした結果、多数の応募の中から社花に水仙、社木に山茶花を選んだ。新たに落成した厚生施設も、これにちなんで「厚生館さざんか」と命名された。

社内憲章

- 一、開発は毎日前進 続ける努力
- 二、健康とあふれる活気は我等がつくる
- 三、正確な指示と報告 未来をきづく
- 四、規律ある明るい社内 我等の願い
- 五、誠実と創意と工夫で生きぬく会社



創立25周年式典



創立30周年式典



社木として選ばれた山茶花の花

CHAPTER 4

国内外の生産拠点の充実

1987(昭和62)年－2003(平成15)年

■ 新経営陣のもと本社第一工場の完成

1987(昭和62)年8月に開催された株主総会および取締役会において、長年にわたり社長を務めてきた深谷佐一が代表取締役会長になり、専務取締役であった平井美代子が六代目社長に就任した。新しい経営陣が発表した経営方針のもと、当社は新たな時代を迎えることになる。

同年11月には創立35周年記念として当社初となる海外研修旅行をバンコクで実施。当社と同様にパームロックを製造する現地工場を見学した。翌1988(昭和63)年には2人の社員をオーストリアDOA社ヘロック製造機導入のため、研修を目的として派遣した。

一方、1988(昭和63)年に急逝した深谷会長と平井社長、深谷専務が心血を注いで取り組んだ本社第一工場(約5,940㎡)が1988(昭和63)年5月に完成し、竣工式と創立35周年記念式典を開催した。これは、オーストリアのDOA社から導入したロック製造機2基(現在もII AS、II ANラインで稼働中)のお披露目の場でもあった。この最新鋭機の導入は、ヘアーロックをはじめとするあらゆるロックを手掛ける企業として相応しい設備を持つことができた。

■ エステルロックの開発

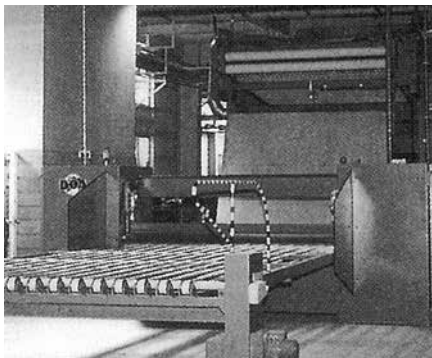
ポリエステル繊維は繊維の中で最も安定していると言われている。当社では、蓄積してきたポリエステルに関する技術をもとに、全く新しい繊維クッション材「オンリーワンダー」(エステルロック)を開発し、1989(平成元)年から販売を開始した。弾力性・通気性・難燃性・振動吸収性に優れ、当時は騒音公害低減を目的にしていたが、その後用途は拡大。エステルロックは当社製品の柱として成長していく。

■ 国内外の生産拠点の整備

1990(平成2)年9月に当社3番目の生産拠点となる海南工場が、和歌山県海南市にて稼働した。海南市は日本におけるたわし生産の中心地で、当社で生産している「サラシロック」は、ほとんどの用途がた



六代目社長に就任した平井美代子



オーストリアのDOA社から導入したロック製造機



新しい繊維クッション材「オンリーワンダー(エステルロック)」

わしとして、海南省で加工が行われていた。そこで、加工地に近い場所で製造することで、流通コストを削減するとともに、高品質の実現を目指した^{※2}。

さらに、当社にとって初の海外生産拠点となる「TOYO CUSHION LANKA PV Ltd」（以下：ランカ工場）をスリランカの Hayleys 社との合弁会社として設立した。敷地面積約4,000㎡、建物面積約1,200㎡で、1990（平成2）年12月に開所式を開催した。

ランカ工場はスリランカの商業都市コロomboの近くにあり、やしの実繊維を天然ゴムと結合させてパームロック（園芸用ココポッド、マットレス中材に使用）の生産ライン^{※3}を置いた。

また1991（平成3）年には、オランダ ENKEV.B.V（エンケフ）社と技術交流会を開催し、同社と技術提携を締結するなど、当社はこの時期は海外との結びつきを強めていった。

■ II AN 化繊 II AL エステルライン完成

1993（平成5）年2月には本社第一工場に完成した2階部分に、II AN（化繊）ラインを設置した。これにより太繊維サランロックの一連での製造が可能になった。また、製品を2階で取り出すことによって製品置き場への移動が簡単になり、量産が可能になった。

同年5月には、従来からあった「湿式／オンリーワンダー」とは別に、「乾式／オンリーワンダー」のII AL（エステル）ラインが完成し、湿式よりさらに衛生的になり量産もできるようになった。このラインを使って、薄物キルト綿から厚物介護用マットレスまで、幅広い製品を生産できるようになった。これらの製品は日本防災協会が定めた防災製品機能を持ち、大きな空間率によって通気性に優れ、衛生的な製品として人気を得た。

■ 高品質が証明された「ES-アルファシート」

1995（平成7）年には、やし繊維・化学繊維を使った土木用不織布資材や、河川護岸吸い出し防止シート、パームロック・サランロックなどのフィルター・クッション材の販売会社「株式会社アルファオブジャパン」を設立。翌1996（平成8）年には当社は平井美代子が取締役会長に、深谷善吾が七代目社長に就任した。

同年には、建設省（現：国土交通省）の建設技術評価制度に基づいて、当社とアルファオブジャパンの連名で、河川護岸吸い出し防止



TOYO CUSHION LANKA PV Ltd（ランカ工場）を視察する平井社長

※2：2000（平成12）年10月に海南工場を本社工場へ移設（現：I AEライン）。海南工場は閉鎖。

※3：1994（平成6）年6月に解体した本社I ACの機械をランカ工場に移設。同工場2機目の製造ラインとなった。



II AN（化繊）ライン



II AL（エステル）ライン



河川護岸吸い出し防止シート「ES-アルファシートE-10」



E-10の審査証明書



北海道工場に設置した河川護岸吸い出し防止シート（ステラフェルト）の製造機



「ビジョン40」達成に向けて熱のこもった打合せが行われた

シート「ES-アルファシートE-10」の技術審査証明（建設大臣認定）を取得した。これにより同製品は「技術的に安定度が高く、適切な商品である」という評価を得たほか、品質の高さを公の機関が証明したことにもなり、深谷新社長の就任は幸先の良いスタートとなった。

■ 社長交代と北海道工場でのステラフェルトの製造開始

ところが深谷社長は1999（平成11）年に退任。再び、会長である平井美代子が八代目社長に就任するのである。トップが交代するなか、当社は2001（平成13）年8月から北海道工場で旧建設省タイプの河川護岸吸い出し防止シート（以下ステラフェルト）の製造を開始。同様の製品を北海道で製造するのは、業界初であった。大型のカード機を配置し、1工程で製造できるラインを導入することで、短納期・低コストを実現した。業界の先頭を行く画期的な取り組みである。

また2003（平成15）年には、スリランカ製植生ロールが、大阪淀川工事事務所管内の工事物件である一級河川淀川・柴島地区の、総延長約1,100mの工事で施工されるなど、当社の製品は公共工事の現場で広く活用されるようになった。

■ ISO9001取得

当社は、こうした品質の高さをさらに強化するため、大府市商工会の推進を受けて、当社と東海興業精機株式会社、株式会社京和製作所の3社共同で品質マネジメントの国際規格であるISO9001の認証取得に取り組んだ。2000（平成12）年12月には3社同時にISO9001（JQA-QM5861）の認証を取得。翌年2月には中部経済新聞にISO9001共同取得事業に関する平井社長の取材記事や「We Love

COLUMN 1 3H作戦を展開

1993（平成5）年に迎える創立40周年のテーマ「ビジョン40」に向けて、1992（平成4）年度の目標を「3H作戦」（ハイテク：高い品質・ハイタッチ：高い人間関係・ハイファッション：高いデザイン性）と決め、「すべてのことに挑戦する」をスローガンに掲げて、様々なことに挑戦した。消費者のニーズが多様化し、高い品質だけでなく、高いデザイン性も必要だと認識したことが背景にある。

Clean」をテーマにしたISO9001 認証取得広告が大きく掲載された。

■ ランカ工場へ研修訪問

当社は1999（平成11）年6月に、当時の経営陣である平井会長、深谷社長、白石専務、外山部長、および関連会社の株式会社東伸の中根社長、株式会社ヘイレックス・ジャパンの福島社長と通訳の白石氏で、ランカ工場を研修訪問した。ランカ工場は増築・増設が進み、ヨーロッパ向けのガーデニング用ハンギングバスケット等をフル稼働で生産、技術発展は目を見張るものがあったため、この訪問は契約の更新調印も兼ねていた。

■ スリランカ中小企業経営者の訪問、そして50周年へ

さらに、2003（平成15）年2月には、良好な関係の証として財団法人海外技術者研修協会の依頼を受けて、スリランカ中小企業経営者研修生28名が当社を訪問。平井社長の経営方針説明の後、II AS、I AE、II ANの3ラインの見学を行った。

また、同年に豊川稲荷を参拝し、三谷温泉で創立50周年記念式典を開催した。記念事業として「50年のあゆみ」を発刊し、「創業から半世紀にわたる歴史をさらなる飛躍に結実させるために、今ここから新たな一歩をスタートする。未来に向かって、社員ともども一生懸命努力していきたい」と、平井社長は新たな時代の幕開けを宣言した。



3社同時のISO9001（JQA-QM5861）認証取得



ランカ工場へ研修を兼ね訪問した当時の経営陣



スリランカより研修生来社

COLUMN 2 社歌誕生

創立40周年を迎えるにあたって、社内から「社歌を創ろう」という声が上がリ、歌詞を社内募集し、社歌制作委員会を設置した。多くの社員が応募した案の中から歌詞が決定し、委員会が曲を選定して「おはよう ハロー こんにちは」が社歌として誕生した。



創立50周年記念の一環として発行した「50年のあゆみ」

第2部 | 近20年のあゆみ

CHAPTER 5

転換期を迎えて

2004(平成16)年－2006(平成18)年

■ ステラフェルト、シャイニングパッドの生産拡大

現在、当社の主力製品のひとつである国土交通省タイプ「ステラフェルト」は2000(平成12)年頃になると大きく売上を伸ばしていく。2001(平成13)年に北海道工場において新設したフェルトラインを、2004(平成16)年には本社にも第八工場として新設、生産を開始した。これにより、仕入れていたフェルト資材をすべて内製化することになった。

この時期、売上を伸ばしたのは「ステラフェルト」だけではない。日本バイリーン株式会社と共同特許を申請し、2002(平成14)年に生産を開始したサイザル麻繊維を使った床磨き用パッド「シャイニングパッド」も販売が軌道に乗り、2005(平成17)年には量産体制に入った。

こうして当社は創立50周年を迎えた2003(平成15)年を境に、新たな転換期を迎えることになったのである。

■ 中小企業再生支援協議会の経営サポート

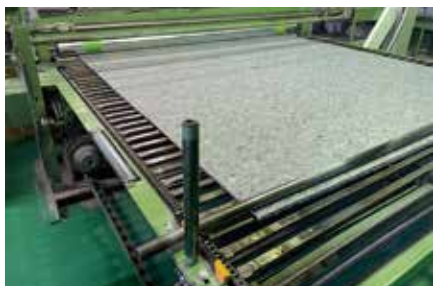
こうした転換期を象徴する出来事が、当社が2006(平成18)年から導入した中小企業再生支援協議会からの経営サポートである。

同協議会は、中小企業の事業再生・支援拡充を目的に、中小企業庁が国の認可法人として設けた機関だ。

当社は同協議会からのアドバイスを受けて中期経営計画を作成する

COLUMN 3 中部産業連盟による経営改善指導

当社は前述のように中小企業再生支援協議会からのアドバイスを受けていたが、他の機関からも異なる視点でのアドバイスを受けたいと考え、2016(平成28)年に本社および北海道工場において中部産業連盟の経営改善指導を受けた。



ステラフェルト



シャイニングパッド

ことで、財務体質の改善、経営基盤の強化を図った。この取り組みによって、企業としての体制を整えていった。

CHAPTER 6

安全向上と生産体制充実化

2007(平成19)年－2012(平成24)年

■ 全体安全研修・ライン会議スタート

「絶対に労働災害を起こしてはいけない」

こうした強い意思のもと、2007(平成19)年5月から全体安全研修をスタートした。まず、II AGラインから始まり、徐々に全社に広げていった。

また、不良品削減・採算向上・設備メンテナンス計画の充実を目指して、ライン単位でライン会議も開催。2008(平成20)年に製造2課(II AN)で始めたのを皮切りに、2009(平成21)年にフェルトを生産する本社工場の製造8課(II ARライン)と北海道工場でもスタートした。さらに、2010(平成22)年から製造1課(II AS)および製造5課(II AG)でも実施した。ライン会議は現場の人たちの意識を変え、積極的に自分の考えを発表するなど、現場と管理者・経営層とのコミュニケーションが取りやすくなった。

2011(平成23)年にはライン会議が全ラインに拡大し、土木関連とフィルター関連に分け実施するようになった。現在も続いている同会議は、安全研修とも密接に結びついている。

■ 貫流ボイラー・ニードルパンチ機新設

設備の新設・改善にも積極的に取り組んでいった。本社で使用していた円筒形ボイラーは、2007(平成19)年に貫流ボイラー3基を新設し切り替えた。

円筒形ボイラーのような大型ボイラーはボイラー技士免許が必要になるため、従業員の資格取得が必須であったが、小型の貫流ボイラーに交換したことで、その必要がなくなった。

管理は、遠隔管理ができる外部企業に委託した。

一方、北海道工場では、2008(平成20)年に国土交通省タイプ「ステラフェルト」の生産力向上のため、大型上下打ちニードルパンチ機を



全体安全研修



ライン会議



本社に設置した貫流ボイラー



北海道工場に設置した貫流ボイラー



社員旅行（東京駅にて）



九代目社長に就任した白石美千代



本社試験室に設置したデジタル式引張試験機

設置。2010（平成22）年には本社に続き、貫流ボイラー設備も新設した。こうした一連の取り組みで、北海道工場は生産能力が向上し売上も大きく伸びた。

2011（平成23）年には本社工場の汚水処理機を新設。さらに2012（平成24）年には新しい生産方式に対応して生産効率や品質向上を図るため、製造1課ⅡAS（パームライン）の各所をインバータ化した。

■（株）東伸が東伸工場になる

当社は、家庭用マットレスの生産を終了したため、マットレス用のキルトの発注先である東伸の仕事量が激減した。そこで2008（平成20）年に同社を吸収合併し、当社の東伸工場とした。

CHAPTER 7

新体制で新たな飛躍へ

2013（平成25）年－2016（平成28）年

■ 九代目社長就任

2013（平成25）年4月に60周年記念行事として本社・北海道工場合同の社員旅行を実施。東京スカイツリーや浅草の浅草寺を訪れ、今後の発展を祈願した。

同年8月に、六代目・八代目社長を務めていた平井美代子が代表取締役会長に、専務取締役であった白石美千代が九代目代表取締役社長に就任した。ここから現在の体制はスタートする。前社長の経営計画を引き継ぎ、財務改善に取り組んだ。

■ 引張試験機の導入と生産ラインの強化

2013（平成25）年に本社試験室を改良し、最新のデジタル式引張試験機を設置した。2014（平成26）年には、それまでハンディタイプの簡易的な試験機しかなかった北海道工場にも引張試験機を新設し、本格的な引張試験が行えるようになった。

さらに、ものづくり中小企業支援補助金を使い、2014（平成26）年にⅡAS・ⅡAR・ⅡAG、北海道工場で生産ラインを強化した。

併せて同年1月には本社変電所設備を新設した。それまでの工場間

の屋外に設置していた変電設備を安全に運用するためにリニューアルし、改築した第三工場に移設した。

同時にⅡAL（エステルライン）と旧ボイラー室を撤去して、その空間を増設した第三倉庫に充てた。これにより空間を有効に活用でき、業務の効率化が図られた。

2015（平成27）年から安全性向上を目的に、第一次制御盤改良工事がスタート。本社工場建設時から増設を繰り返し複雑な網の目状になっていた配線を整理するとともに、あちらこちら分かれていた操作機能を集約し作業の効率化を図った。

■ 新分野「壁面緑化」の生産を開始

2016（平成28）年から、当社にとって新製品となる「壁面緑化」の生産を開始した。

これは大規模ショッピングセンターの駐車場などの壁面にツタなどの植物をからませるための資材で、建物内の温度上昇軽減や二酸化炭素削減、耐水性強化に役立つことから、様々な場所で利用されていた。同製品は現在も定期的に注文が入っている。

■ 北海道台風被害による河川復旧工事に ステラフェルトが大活躍

2016（平成28）年8月に北海道に襲来した台風10号は、空知川など複数の河川の氾濫をもたらし、同地域は甚大な被害を受けた。このため同年から約3年間の予定で河川復旧工事が始まった。

北海道では堤防の長さに合わせて、指定されたサイズの河川護岸吸い出しシートを使う規定があった。当時、北海道内で河川護岸吸い出しシート（国土交通省タイプ「ステラフェルト」）を製造していたのは当社



本社変電所（上）と第三倉庫（下）

COLUMN 4 日建工学 50 周年式典に出席

創業以来吸い出し防止材の製造において密接な協力関係にあった日建工学株式会社が、2014（平成26）年に東京のホテルオークラで50周年記念式典を開催した。当社からは平井会長・白石社長・深谷部長が出席し、両社の長年の絆を振り返るとともに、今後も連携して事業を進めていくことを確認し合った。

だけで、道内需要を優先した点や指定のサイズに合わせて生産できる点が認められ、残業して対応しなければならないほど大量の注文を受けた。

CHAPTER 8

未来に向けた経営基盤 —— 職場環境の改革

2017(平成29)年 - 2019(平成31/令和元)年

■「健康宣言」の取り組み開始

健康志向の高まりを受けて、2016(平成28)年10月から本社工場の敷地内を全面禁煙にした。これをさらに進め、2017(平成29)年には「健康宣言」を行い、健康診断と要再検査者に対する健康指導、ラジオ体操などの取り組みを開始。従業員の健康に対する意識が高まった。こうした取り組みは評価され、同年1月に全国健康保険協会愛知支部から「平成28年度健康経営チャレンジ事業所」の認定証を受け、2018(平成30)年3月には大府市長から「大府市健康づくり企業チャレンジ認定証」が授与された。

■工場環境の改善

2017(平成29)年以降も設備の新設や改修を積極的に進めていった。

2017年4月に再生可能エネルギーの活用によって環境問題に貢献するために、本社第一工場・第八工場の屋上にソーラーパネルを設置。

また同年には製造6課(裁断)がある1階の床を改修、1階と第一工場3階で作業を実施できるように機械の配置を変更した。第5工場(II AGライン)でも、2018(平成30)年から床の全面改修工事を行った。さらにII AGラインでは、2017(平成29)年から第二次制御盤改良工事を開始した。

床の改修工事は北海道工場でも行われ、2017(平成29)年にはアスファルト舗装を全面改修した。

また、2018(平成30)年6月には65周年記念行事として、北海道工場で全従業員の研修会を予定していたため、エントランス(門および



「平成28年度健康経営チャレンジ事業所」
認定証



「大府市健康づくり企業チャレンジ」
認定証



本社第一工場・第八工場の屋上に設置した
ソーラーパネル

外構)の改修工事を実施した。

さらに原材料を投入する時の作業性を向上させるために、同年8月に北海道工場に配合台を設置。これにより作業性だけでなく、安全性も劇的に向上した。

2019(令和元)年からはII ANラインの作業効率の改良にも取り組んだ。

その他にも、II ASライン集塵機の防音工事や、第七工場へ続く通路床の改修工事、本社の電気関連の全面改修も実施。同時に、ライン内にカメラやセンサを付けて、パソコンでも状況を把握できるようにした。また、デジタル化を積極的に進め、生産ラインを最新鋭にしていった。

北海道工場でもVSモータのインバータ化や電気関連の全面改修を実施、本社と同様にデジタル化も推進し最新鋭の工場になるように改善した。

■ 持ち株会社体制と名南経営の経営指導

中小企業を取り巻く環境は、需要の縮小、人口の減少による労働者不足等、年々厳しさを増しており、中小企業の廃業や減少が社会問題となっていた。

当社においても事業活動の継続、さらなる発展、将来発生するであろう株主の株式相続等の問題に対処するため、持ち株会社へ体制を移行することとした。

名南経営グループの指導を受け、株主の了承を経て、当社のグループ販売会社である株式会社アルファオブジャパンを親会社、当社を子会社とする持ち株会社体制が、2019(平成31)年に実現した。また、税理士業務や労務管理業務なども名南経営グループに委託した。



北海道工場に設置した配合台



II ASライン集塵機に取り付けられた防音装置



ライン内の監視カメラ



65周年記念 北海道工場で全従業員研修会を実施(左)、層雲峡温泉に社員旅行(右)

CHAPTER 9

未来に向けたデジタル化の推進

2020(令和2)年－2023(令和5)年

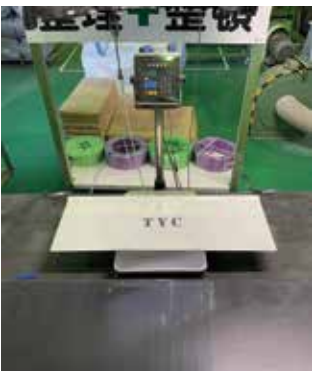


飛沫防止パネルで感染予防

■ コロナ禍で始まった本社・北海道工場間の Web 会議

世界的にまん延した新型コロナの感染を予防するため、当社では本社や工場内各所に消毒液を設置し、全社員および来客者に対する感染対策の徹底を2020(令和2)年から開始した。

また、同年には本社・工場間の行き来も制限したため、離れた場所にある本社と北海道工場ではWeb会議を導入。コミュニケーションと連携をしっかりと取れる体制を整えていった。こうした取り組みによりインターネットに接続されていなかった北海道工場で一気にデジタル化が加速したのである。



北海道工場に導入した製品計量機

■ 原料輸入管理システムの改革、計量システムの導入

こうしたデジタル化の推進はWeb会議だけではない。

当社ではパームロックの原材料としてやしの実の繊維を海外から輸入しているが、新型コロナ禍では船便の到着が遅れ、1ヵ月以上も船の中で保管されたため、繊維が劣化して、生産に支障が生じることもあった。そこで、2021(令和3)年に海外からの原料輸入の管理システムを改革し、出荷日などをきちんと管理して、どのロットを使って生産したのかを明確に把握できるようにした。

北海道工場でも、2021(令和3)年に製品計量システムを導入した。これにより、北海道工場でも重量管理に対する意識が変わり、品質向上につながったのである。

また、当社とアルファオブジャパンの販売管理システムを2022(令和4)年にリプレイスし業務効率化を推進した。

■ 建物・設備の新設・改修を継続

一方、建物や設備の新設・改修は令和に入っても引き続き行われ、生産効率向上に取り組んだ。

2020(令和2)年にVR用温水ボイラーを更新。2021(令和3)



II ASラインの熱媒ボイラー

年は本社第二工場屋根の塗装工事と生産設備の要である熱媒ボイラーをII ASラインに新設。2022（令和4）年にはII ASにあるホットプレス機をオーバーホール。2023（令和5）年には、第一工場のスクリーコンプレッサを設置した。

■ SDGs 達成に向けた取り組みを宣言

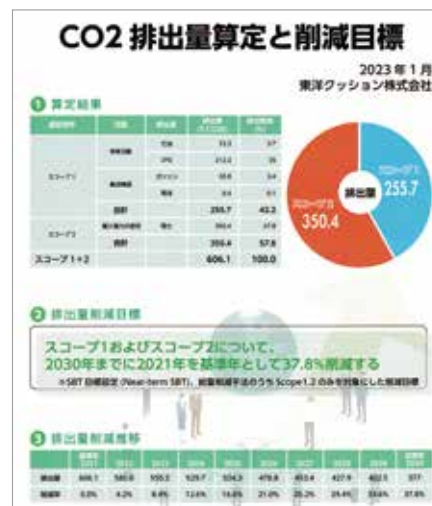
当社もこれからの循環型社会に関わる企業として、国連が定めた2030年までに達成すべき「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて取り組むことを、2020（令和2）年10月に宣言した。（具体的な内容はP.30を参照）

そして、地球温暖化防止に貢献するため、2021（令和3）年から当社はCO₂排出量を算定、排出量の証明書を毎年もらいCO₂削減に取り組んでいる。

さらに2022（令和4）年には本社および北海道工場の照明をLED化し、デマンド計の設置、新しい電力管理システムの導入により、省エネ意識向上と光熱費削減にも取り組んでいる。

■ 創立70周年を迎える

当社は2023（令和5）年4月に創立70周年を迎え、大府市のMAXI MANISで70周年記念式典を本社と北海道工場合同で行った。同年秋には創立70周年の記念誌（本誌）を発行。こうした一連の記念行事を通じて、当社は次代に向けたさらなる発展を誓ったのである。



当社のCO₂排出量と削減目標



創立70周年記念式典で挨拶をする白石社長



創立70周年記念式典に集まった全社員

創立
70周年

「ポストコロナ」に向けて
さあ、あなたはどのよう行動しますか？



『花びら』とは…

2008年(創立55周年)から、その時最も大切とする事柄をお題として桜の花びらの用紙に社員一人一人が自分の思いを書き記す、創立記念日ごとの恒例行事です。

創立70周年のお題は「ポストコロナに向けて、さあ、あなたはどのよう行動しますか？」でした。

“やりたいと思ったことはまず、すぐやってみる”を心掛けたと思います。”時間”の大切さを、コロナ禍の3年間で教えてくれました。

『ポストコロナ』の新しい常識が定着していく中で、自分も会社も“進化”出来る行動をする。

コロナの3年間、色々な事が制限されていました。ポストコロナに向け人と人の繋がりを大切に、会えなかった人とも会い出来なかった事もしていく。全ての面において前向きな行動をしていきたいと思っています。

時、場所、場合を考えつつ、マスクをする事を気にせずに旅行や行楽など余暇を楽しみたい。

仕事や生活のあり方をコロナ禍前に戻さず、仕事はデジタル活動を活かして、生活はゆとりのある持続可能な新しい生活習慣を考えたい。

コロナによって得た新しい方法論。コロナの影響から、それなりに解放された状況である今の方法論。これらを上手く選択し、より効率的に、より安全に仕事や私生活を充実させていきましょう。

コロナ禍で生活様式や今までの習慣や常識が変わり新しく便利なサービスや趣味などが見つかったこともあります。そういった事はこれからも活用して新しいことにもチャレンジしていきたいと思っています。

ポストコロナでの新たな暮らし方の選択肢や価値観が広がることに目を向けていきたいです。

マスク、手洗い、うがいは維持しながら、イベント等マスクしながらの声出しは緩和されるなどあり常識の範囲内で楽しみたい。

マスク。三密対策を徹底し、リバウンドを防ぐ。

コロナが2類から5類になればもっと経済が、色々な事が動き出すと思います。そんな中、低迷してきた飲食業界や私達製造業もいよいよだという思いでワクワクします。仕事出来る喜びを感じながらポストコロナこれからの新しい生活を肌を感じ、楽しんでいきたいと思っています。まずマスク無しで皆さんと会話、そして外食や家族旅行、花火大会など少しずつならしながらと思っています。

これまで会うのを控えていた人達にどんどん会っていききたいです。一緒に旅行に行ったり、みんなで集まって食事をしたりして、自分の楽しみを増やしていきたいです。またそこから少しでも経済の活性化に繋がればと思います。

急激な生活変化に対応してきた我々。これからの変化にも臆することなく個人、会社共に、もう一段階ランクアップ出来れば良い!と切に願います。

[^{によしやじゅうふ}如釈重負] 中国の言葉。肩の荷を下ろすように緊張していた気持ちが過ぎ去ってからの気楽さや愉快さを楽しみたい。

コロナが静まりました。行きたいところはあるものの！何しろ出不精で今いち踏みだせません。これからジックリ考えます。

今年は『5年後（先）を見据えた〇〇』というワードが注目されています。日本中が前進を再開しました。私も遅れることなく前へ前へと進んで行きたいと思えます。

ビジネスシーンが活発になる事によって、より多くの情報に敏感になり、客先の声を多く聞きたい。

コロナに対する規制も緩和され今まで出来なかった田舎への帰省や友人との会食をしたいです。でも今まで通り感染対策も続けたいと思えます。

これからも手洗い、うがいをを行い人が多いところではマスクの着用をします。

我が家ではまだまだ気を抜かず感染対策として今まで通り外出頻度を控えて過ごすつもりです。

コロナ前まで当たり前の様にしていた日常の生活と安定感を取り戻したい。

規制緩和しても手洗い、うがい、マスク着用も続けたいと思う。飲食、旅行も自分の行動に気を付けて楽しみたいと思えます。

人のつながりを大切にしたい！

コロナも少しおちつき70周年を迎え良いスタート。会社のため自分のため がんばりたいと思えます。

今回のコロナのもたらした^{こうざい}功罪はとても大きなもので学ぶ事もたくさんありました。これから先 順応性を求められる事を知り“できない”“興味が無い”で終わるのではなく様々なチャレンジをして経験を積み、人としても成長していきたいと思えます。

家族旅行や娯楽施設で満喫する。目標、ユニバーサルスタジオに行く！

状況よってのマスク着用やフィジカルディスタンスはニューノーマルになりつつありますが、みんなで楽しく旅行に行きたいです！

思い切って遠出してみるのも良い。日常とは違う刺激を受け、気持ちも外に向けて前向きになれると思えます。

いろんなルールが緩和されつつあるが油断出来ない。手洗い・うがいは引き続き行っていく。マスクの無い表情が見えるのはうれしい。

何かにつけて出来なかった事をやっていきたい。

コロナの影響で会うことを控えていた友人や親戚に会いに行きたいです。



未来に向けた取り組み

東洋クッション SDGs 宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、SDGsの達成に向けた取り組みを行っていく事を宣言します。

SDGsの達成に向けた取り組み

■「国土」と「生活」を守る製品の提供

当社が製造するロック材製品を通じて、持続可能な循環型社会の実現へ更なる貢献をしております。

具体的な
取組み

河川護岸用土木資材や排水処理用製品の製造・供給、天然椰子繊維を発展途上国より適正な価格で輸入し製品原材料として使用、リサイクル繊維を原料として再利用



■製品対策

お客様の要望に対し、高品質の製品と最大限のサポートでお答えできるよう取り組んでまいります。

具体的な
取組み

不良品の製造段階での削減と、出荷検品体制の確立



■「人」へのこだわり

事業や社内制度を通じて、全社員が成長しキャリアアップをしていくとともに、新しい働き方に取り組んでまいります。

具体的な
取組み

あらゆる面で差別しない体制を構築、65歳以上の勤務を希望する社員に継続可能な職場の提供、「健康企業宣言」の実施



■社会貢献活動

地域に対する騒音・振動へ配慮した取組み等を通じて、持続可能な地域社会への実現に積極的に貢献してまいります。

具体的な
取組み

早朝と深夜を避けて機械装置を稼働、地域団体への寄付・ボランティア等社会貢献活動の実施



2020年10月13日

東洋クッション株式会社代表取締役 白石美千代

会社概要

社名	東洋クッション株式会社
本社	〒474-8642 愛知県大府市追分町2丁目1番地 TEL (0562) 47-2151 FAX (0562) 47-2156 E-mail : toyo-c@ma.medias.ne.jp
代表取締役社長	白石 美千代
創立年月日	1953（昭和28）年4月11日
資本金	8,000万円
従業員	40名（男性35名・女性5名）
各工場所在地	北海道工場 〒068-0111 北海道岩見沢市栗沢町由良15-8 TEL (0126) 45-4513 FAX (0126) 45-3924 東伸工場 〒477-0037 愛知県東海市高横須賀町北猫狭間20-1 TEL (0562) 33-1689 FAX (0562) 33-5313 スリランカ工場 トーヨークッション・ランカ（PVT）リミテッド スリランカ国 コロンボ10 ディーンズロード400 TOYO CUSHION LANKA（PVT）LIMITED No.400,DeansRoad,Colombo10
事業内容	不織布の製造販売 ・土木資材（化学繊維、椰子繊維を使用した河川護岸用吸出し防止材） ・フィルター資材（化学繊維、椰子繊維を使用した工業用プレフィルター） ・タワシ資材（化学繊維を使用した一般家庭用たわし資材）等
主要取引先様	日建工学株式会社、旭化成ホームプロダクツ(株)、旭化成アドバンス(株)
関連企業	株式会社アルファオブジャパン

工場紹介

北海道工場

北海道岩見沢市栗沢町由良 15-8



東伸工場

愛知県東海市高横須賀町北猫狭間 20-1



スリランカ工場

スリランカ国 コロンボ 10 ディーンズロード 400



年表

年	当社のあゆみ	社会の出来事
1953 (S28)	<ul style="list-style-type: none"> ● 会社設立、本社を大府市に置く ● 初代社長に加藤錠太郎就任。資本金200万円 ● 資本金320万円に増資 ● 初代社長加藤錠太郎死去により二代目社長に久野俊男就任 	<ul style="list-style-type: none"> ● NHKがテレビ放送開始 ● 吉田内閣、「バカヤロウ解散」 ● “八頭身美人”伊東絹子、ミスユニバースコンテストで3位入選 ● 「君の名は」の大ヒットで、「真知子巻き」流行
1954 (S29)	<ul style="list-style-type: none"> ● 三代目社長に加藤時二就任 ● 関東（浦和）、東北（仙台）に代理店設置 ● 資本金400万円に増資 ● ヘアロックを使った和室用マットレスを製造、販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● マリリン・モンロー来日 ● ビキニ環礁におけるアメリカの水爆実験で第5福竜丸被災 ● 青函連絡船洞爺丸転覆、1,155人が死亡
1955 (S30)	<ul style="list-style-type: none"> ● 代理店（名古屋）より米軍向けヘアロックの特需受注 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇高連絡船「紫雲丸」沈没、死者168人 ● 東京通信工業（現：ソニー）から、トランジスタラジオ発売 ● 森永ヒ素ミルク事件
1956 (S31)	<ul style="list-style-type: none"> ● 四代目社長に久野善式就任 ● 北海道（札幌）に代理店設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本登山隊、ヒマラヤのマナスルに初登頂成功 ● テレビセット普及、そこで「一億総白痴化」が流行語 ● “太陽族”ブーム
1957 (S32)	<ul style="list-style-type: none"> ● 札幌の代理店より三折マットレスの受注増加とともに北海道に向けてめざましい進出を果たす ● ベッドの商標を「トーヨーマットレス」と正式に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本南極観測隊がオングル島に上陸し、“昭和基地”と命名 ● 東海村原子力研究所に日本初の“原子の火”ともる ● 5千円札、百円硬貨登場
1958 (S33)	<ul style="list-style-type: none"> ● マットレス販売を独立させ、東洋マットレス株式会社を設立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 名古屋本場所始まる ● 東京タワー完成 ● 1万円札発行 ● フラフープ・サックドレスの流行
1959 (S34)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気マットレスの開発に成功 ● その製造会社として、株式会社巴電気製作所を大府市共和地内に設立。通産局より電気マットレス製造の許可を受け、販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 皇太子殿下ご成婚（現：上皇陛下） ● 伊勢湾台風により死者行方不明者7,500人、被災者153万人の大被害 ● 個人タクシー登場
1960 (S35)	<ul style="list-style-type: none"> ● 札幌市内に倉庫用地購入 ● 資本金800万円に増資 ● 大府市共和地内に新工場用地を購入。株式会社巴電気製作所を東洋ベッド株式会社に改名し、ベッドフレームの製造を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安保闘争激化、デモ隊国会乱入により樺美智子さん死亡 ● 「ハイライト」発売 ● 浅沼稲次郎社会党委員長刺殺される ● カラーテレビ本放送開始 ● ダッコちゃんブーム
1961 (S36)	<ul style="list-style-type: none"> ● オーストリア・DOA社のロックオートメーションシステムマシンを購入開始 ● 大府市共和地内に新工場完成。ロックオートメーションシステムの運転開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● ソ連、人間衛星船ヴォストーク1号の打ち上げに成功 ● 「地球は青かった」とガガーリン少佐 ● 愛知用水が完工
1962 (S37)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品 化繊ロックの開発に成功。販売を開始する ● 資本金1,600万円に増資 ● 木製本格ベッドの販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 睡眠剤により、サリドマイド禍発生 ● “太平洋ひとりぼっち”、堀江謙一がゴットでの太平洋単独横断に成功
1963 (S38)	<ul style="list-style-type: none"> ● スチール製2段ベッドのブーム到来 ● 国鉄にマットレス納入開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 狭山事件起こる ● ケネディ大統領暗殺される ● ニセ千円札に対抗し、伊藤博文の新千円札発行
1964 (S39)	<ul style="list-style-type: none"> ● 全日本ベッド工業会発足と同時に入会 ● 名古屋スチール株式会社を吸収合併し、パールチェア、テレビチェアの製造販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新潟で大地震（M7.5）発生 ● 名神高速道路全通 ● 東海道新幹線開業 ● 東京オリンピック開幕
1965 (S40)	<ul style="list-style-type: none"> ● 四代目社長久野善式の死去により五代目社長に深谷佐一就任 ● 東洋マットレス株式会社を解散し、東洋クッション株式会社に合併 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝永振一郎博士、ノーベル物理学賞を受賞
1966 (S41)	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋クッション株式会社に東洋マットレス株式会社を合併させ増資400万円を加え、資本総額2,000万円に ● ベッドの商標を「トーヨーマットレス」から「トーヨーベッド」に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビートルズ来日 ● NHK朝の連続テレビ小説“おはなはん”50%の視聴率で大人気
1967 (S42)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車用座席シートクッション材の製造開始 ● 大府市共和地内の新工場増設と本事務所の建設に着手 ● 共和町に工場用地購入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資本取引の自由化実施 ● ミニスカート大流行
1968 (S43)	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事務所と増設工場の完成 ● 営業本部を大府町から共和町に移す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 十勝沖地震（M7.8）発生 ● 札幌医大の和田教授が日本で初めて心臓移植を執刀

年	当社のあゆみ	社会の出来事
1968 (S43)		<ul style="list-style-type: none"> ● 飛騨川バス転落事故 ● 川端康成、ノーベル文学賞を受賞 ● 3億円事件発生
1969 (S44)	<ul style="list-style-type: none"> ● 土木用吸い出し防止材の販売を開始する ● 東洋ベッド株式会社を東洋クッション株式会社に合併する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学紛争に機動隊導入、東大安田講堂の封鎖も解除される ● 東名高速道路全通 ● 米アポロ11号が人類初の月面着陸に成功 ● ボウリングブーム
1970 (S45)	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋ベッド株式会社合併により資本金2,600万円に増資 ● オーストリア・DOA社のロックオートメーションシステムマシン（2機目）を購入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪にて日本万国博覧会開催 ● 日航機「よど号」ハイジャック事件 ● 三島由紀夫、割腹自殺
1971 (S46)	<ul style="list-style-type: none"> ● オーストリア・DOA社のロックオートメーションシステムマシン（3機目）を購入 ● 「サランロック」製造開始 ● 「サランロック」のモノフィラメントの生産を別会社株関根産業を設立し開始 ● 資本金3,500万円に増資 ● 共和町に工場用地購入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 名古屋の世界卓球選手権大会を舞台に“ピンポン外交”成立 ● “ドルショック”で東京株式市場大暴落
1972 (S47)	<ul style="list-style-type: none"> ● 大府本社工場の移転開始 ● 共和地内に工場を増設 ● 大府本社工場の移転終了 ● 本社を大府町スクモ25番地から大府市追分町二丁目1番地に移す 	<ul style="list-style-type: none"> ● グアム島から残留日本兵、横井庄一帰国 ● 札幌冬季オリンピック開会 ● 連合赤軍浅間山荘事件発生 ● 沖縄本土復帰 ● 上野動物園に中国より2頭のパンダが贈られ、パンダブームおこる
1973 (S48)	<ul style="list-style-type: none"> ● 悪臭防止公害設備完成 ● 共和町に工場用地購入 ● 半田税務署より優良申告法人として表敬を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 金大中事件おこる ● “オイルショック”おこり、トイレトペーパー買い占め騒動等、市民生活にまで波及 ● 江崎玲於奈博士がノーベル物理学賞を受賞
1974 (S49)	<ul style="list-style-type: none"> ● ベッドの商標を「トーヨーベッド」から「マリオンベッド」に変更、商標登録も完了する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小野田寛郎少尉、ルバング島より帰還 ● 佐藤栄作元首相、ノーベル平和賞受賞 ● “ミスタージャイアンツ”長嶋が引退
1975 (S50)	<ul style="list-style-type: none"> ● 仙台市内に倉庫設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新幹線、岡山―博多間開通 ● 日本女子登山隊が女性初のエベレスト登頂に成功 ● 沖縄海洋博開催
1976 (S51)	<ul style="list-style-type: none"> ● 普濟寺に於いて合同追悼会挙行 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロッキード事件摘発 ● 巨人軍王選手、715号ホームラン達成
1977 (S52)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新潟市内に倉庫設置 ● 資本金5,250万円に増資 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京で青酸コーラ、チョコレート事件発生 ● ロッキード裁判始まる ● 日本赤軍により日航機ハイジャックされる。日本政府は、“超法規的措置”にてこれに対処 ● カラオケブーム
1978 (S53)	<ul style="list-style-type: none"> ● 創立25周年式典挙行 ● 社内憲章制定、リーダー制度採用 ● 北海道工場用地を北海道空知郡栗沢町由良に、7,114㎡取得 	<ul style="list-style-type: none"> ● 伊豆近海沖地震（M7）発生 ● 成田空港（新東京国際空港）開港 ● 宮城沖地震（M7.5）発生 ● 王貞治、800号ホームラン放つ
1979 (S54)	<ul style="list-style-type: none"> ● オーストリア・DOA社のロックオートメーションシステムマシン（4機目）購入し、北海道工場に設置 ● 北海道工場完成。稼働開始 ● 半田税務署より優良申告法人として表敬を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京サミット開催 ● KDD密輸事件摘発 ● インベーダーゲーム大流行
1980 (S55)	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道工場緑化工事完成 ● 資本金8,000万円に増資 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大平首相急死 ● 衆参両院初のダブル選挙 ● 日本、モスクワオリンピックボイコット ● 漫オブーム
1981 (S56)	<ul style="list-style-type: none"> ● マットレス工場完成 ● 横根倉庫（900㎡）取得 ● オートグラフ試験設備を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸“ポートピア'81”開催 ● マイコンブーム絶頂、コンピュータ「熟年」時代へ
1982 (S57)	<ul style="list-style-type: none"> ● 提案制度を本格化する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京永田町ホテル＝ニュージャパンで火災 ● 500円硬貨発行

年	当社のあゆみ	社会の出来事
1982 (S57)		<ul style="list-style-type: none"> ● 東北新幹線開業 ● 上越新幹線開業 ● テレホンカード使用開始 ● エアロビクス、ゲートボール人気
1983 (S58)	<ul style="list-style-type: none"> ● 30周年記念式典開催 ● 厚生館「さざんか」完成 ● 社花「水仙」社木「さざんか」制定 ● 二宮金次郎・社内憲章碑建立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 瀬古利彦、東京マラソンで2時間8分38秒の国内最高記録で優勝 ● 中国自動車道全線開通 ● 東京ディズニーランド開園 ● 日本海中部地震（M7.7）発生 ● 佐々木七恵、東京国際女子マラソンに日本人として初優勝 ● パソコンとワープロ急速に普及
1984 (S59)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回ボウリング大会開催 ● 第1回「東洋夏まつり」開催 ● 体力測定実施 ● 旭化成と親善野球試合開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 三浦和義「ロス疑惑」騒動始まる ● グリコ事件犯人「かい人21面相」 ● 15年ぶりに1万円、5千円、千円の新札発行 ● 東京多摩動物公園などでコアアラ公開 ● この年働く主婦、全体の半数を超える
1985 (S60)	<ul style="list-style-type: none"> ● 協会社(株)東伸設立（4月11日） ● ドライバーズクラブ発足 ● 品質管理強化運動展開 ● 社内運動会実施 ● 厚生委員会キャンプ実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東北・上越新幹線、上野発になる ● 国際科学技術博覧会開幕（つくば） ● 厚生省、AIDS患者第1号確認を発表 ● 初の日本人宇宙飛行士が3人決定 ● 日航ボーイング747ジャンボ機、群馬県御巢鷹山に墜落 ● ファミコンブーム
1986 (S61)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「進歩35」勉強会発足 ● 歩行ラリー開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 藤井寺市で2万2,000年前とみられる旧石器住居跡が発見される ● ハレー彗星が地球に大接近 ● 伊豆大島三原山が209年ぶりに大噴火 ● 三菱高島礦閉山 ● 急激な円高・ドル安
1987 (S62)	<ul style="list-style-type: none"> ● 会長に深谷佐一、六代目社長に平井美代子就任 ● 第1回「海外研修旅行」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 53年にわたる南極捕鯨が閉幕 ● 国鉄が114年の歴史を閉じ、JR6社等発足 ● NHK衛星24時間放送開始 ● 青森～八代間の2,000キロの高速道路が連結 ● 利根川進教授に、ノーベル医学・生理学賞 ● 後楽園球場、50年の歴史を閉じる
1988 (S63)	<ul style="list-style-type: none"> ● 会長深谷佐一死去 ● 本社第1工場竣工（1,800坪） ● オーストリア・DOA社から2基のロック製造機を導入 ● ヨーロッパへ社員研修に派遣 ● 新入社員歓迎花見パーティ開催 ● 35周年式典開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界最長の青函トンネルでJR津軽海峡線開業 ● 東京ドームオープン ● 第24回ソウルオリンピック開催 ● ベトナムの二重体児、ベトナムドクちゃん、分離手術 ● 消費税法成立
1989 (H元)	<ul style="list-style-type: none"> ● 加藤英隆・加古祐三 取締役役に就任 ● エステルロック製造工場および製造ラインの設置 ● スリランカ工場より社員研修に来社 ● エステルロック「オンリーワンダー」販売開始 ● (株)クリエイド技術研究所設立 ● 目標管理を軸とした組織強化を展開 ● 人材能力開発を重点目標とする ● 各製造ラインの独立採算性管理の分析を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 裕仁天皇没、皇太子明仁皇位継承 ● 伊藤みどりがフィギュアスケート世界選手権女子シングルで金メダル ● 消費税スタート ● 美空ひばり死去 ● 東独ベルリンの壁開放へ ● 昭和から平成へ
1990 (H2)	<ul style="list-style-type: none"> ● 海南工場竣工 ● 海外工場「ランカ工場」竣工 ● 「東洋フレッシュ会」誕生 ● 国際家具展示会に出展（晴海会場） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪国際花と緑の博覧会開催 ● 礼宮さまと川嶋紀子さま、結婚の儀 ● 大阪大学医学部倫理委員会、脳死状態からの心臓移植承認 ● 統一ドイツ誕生 ● 日本人初の宇宙飛行士TBS秋山豊寛記者が乗ったソユーズM11が打ち上げられる
1991 (H3)	<ul style="list-style-type: none"> ● 白石美千代・鈴木幸夫 取締役役に就任 ● 年度目標「基本を学べ、基本を守れ、ルーズになるな」を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● スーパーひかりがテスト運転で国内最高の時速325.7kmを記録

年	当社のあゆみ	社会の出来事
1991 (H3)	<ul style="list-style-type: none"> ●ドイツ、オランダ訪問。オランダのハーレンダム市にあるロックメーカー「ENKEV.B.V社」と技術連携を締結 ●ゴルフ同好会・カラオケ同好会誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙・普賢岳で大火砕流が発生 ●東北・上越新幹線が東京乗り入れ ●ルマン24時間レースでマツダ車優勝 ●ソ連で保守派のクーデター
1992 (H4)	<ul style="list-style-type: none"> ●年度目標「3H作戦＝ハイテク・ハイタッチ・ハイファッション」を展開 ●[生産管理強化]各ライン採算性管理完成 ●大府シティマラソンに多数参加 ●若手「生産管理者」募集（12名採用） ●事務部門2階に移動 	<ul style="list-style-type: none"> ●初場所で貴花田が最年少記録で優勝 ●東海道新幹線に「のぞみ」が登場 ●漫画家の長谷川町子さん死去 ●山形新幹線「つばさ」が開業 ●バルセロナオリンピック開幕 ●毛利衛さんがスペースシャトル「エンデバー」で宇宙へ
1993 (H5)	<ul style="list-style-type: none"> ●年度目標「ピンチはチャンス、目標意識、責任意識、心身共に健康」と定める ●社歌：大きな声で『おはよう ハロー こんにちは』制定 ●40周年式典開催 ●収益体質、社内基盤づくりの強化展開 ●II AN（化繊）ライン完成 ●II AL（エステル）ライン完成 ●40周年記念旅行（北海道へ7月14日～17日） ●歩こう会「大高緑地公園」へ ●ヘイレイズグループ ゴードン氏他1名 大府本社へ研修 ●同好会「トーヨーロックス（TOYO LOCKS）」誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ●皇太子殿下、小和田雅子さま結婚の儀 ●自民党55年体制崩壊 ●レインボーブリッジ開通
1994 (H6)	<ul style="list-style-type: none"> ●創立記念日・社内で夜桜の宴 ●社内旅行（木曾路・高山・下呂温泉 11月3日～4日） ●スリランカ工場へI ACライン移送 	<ul style="list-style-type: none"> ●大江健三郎ノーベル文学賞受賞 ●関西国際空港開港 ●松本サリン事件 ●日本女性（向井千秋さん）初宇宙旅行 ●リレハンメル冬季五輪開催
1995 (H7)	<ul style="list-style-type: none"> ●スリランカ ヘイレイズグループ議長「スンニル・メンデス氏」大府本社へ来社 ●販売会社(株)アルファ オブ ジャパン設立（8月23日） ●大府消防本部立合で防火訓練 ●海外研修旅行（グアムへ） ●大府市「初期消火競技会」団体の部“優勝” ●阿知波博識・外山邦興 取締役役に就任 	<ul style="list-style-type: none"> ●阪神淡路大震災（M7.3）発生 ●地下鉄サリン事件 ●東京・大阪でタレント知事誕生
1996 (H8)	<ul style="list-style-type: none"> ●社内旅行（志摩スヘイン村へ） ●取締役会長に平井美代子、七代目取締役社長に深谷善吾就任 ●技術審査証明書（建設大臣認定）取得 「ES-アルファシート E-10」 	<ul style="list-style-type: none"> ●アトランタオリンピック開催 ●英、狂牛病騒動 ●使い捨てカメラ「写ルンです」発売
1997 (H9)	<ul style="list-style-type: none"> ●浸漬槽設置 ●I AFラインにカード・ソフトニードル設置 CSタイプ生産開始 ●II ALテント倉庫設置 ●“大型ホットプレス”設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●拓殖銀行・山一証券倒産 ●就職協定廃止 ●消費税（5%）
1998 (H10)	<ul style="list-style-type: none"> ●創立45周年を迎える ●スリランカより2名来社 ●スリランカ工場長 マーロン・メンデス氏、大府本社へ研修（11月16日～20日） 	<ul style="list-style-type: none"> ●長野オリンピック開催 ●和歌山毒入りカレー事件 ●参院押しボタン投票装置設置
1999 (H11)	<ul style="list-style-type: none"> ●ISO勉強会始まる ●創立記念日行事（東谷山の桜となばなの里） ●バーム解繊機（II AS）設置 ●スリランカ工場へ研修訪問（6月4日～6月11日） （平井会長・深谷社長・白石専務・外山部長） ●北海道工場 創立20周年 ●平井美代子会長が再度取締役社長（八代目）に就任 	<ul style="list-style-type: none"> ●NTT分割 ●日銀ゼロ金利政策 ●改正住民基本台帳法成立
2000 (H12)	<ul style="list-style-type: none"> ●創立記念日行事（静岡・葵博） ●海南工場より本社へIAEライン移設 ●ISO9001取得（JQA-QM5861） 大府市の企業3社にて共同取得（12月22日） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新成人の日（1月10日） ●白川英樹ノーベル化学賞受賞 ●そごう倒産 ●BSデジタル放送開始

●さくら色の項目は年度の標語

年	当社のあゆみ	社会の出来事
2001 (H13)	<ul style="list-style-type: none"> ●創立記念日行事（浜松） ●北海道工場にて旧建設省タイプ河川護岸吸い出し防止シートの製造を始める ●建設技術審査証明書「ES-アルファシート E-10」更新審査（12月26日） 	<ul style="list-style-type: none"> ●米国同時多発テロ事件（9月11日） ●野依良治ノーベル化学賞受賞 ●USJ・TDS開業 ●マイカル倒産
2002 (H14)	<ul style="list-style-type: none"> ●株タナベ経営の経営協力スタートする ●第2創業期（第51期）始まる（7月1日） ●経営理念を設定する ●経営戦略メンバーを選出 ●加藤保紀 取締役役に就任 	<ul style="list-style-type: none"> ●欧州通貨統一（ユーロ） ●公立学校週5日制 ●サッカー W杯日韓共催 ●田中耕一ノーベル化学賞受賞 ●ふたご座流星群観測
2003 (H15)	<ul style="list-style-type: none"> ●年度目標「心・技・体」 ●スリランカ中小企業経営者研修生来社（28名） ●淀川に植生ロール施工（スリランカ産） ●5S運動の強化 ●提案制度の強化 ●50周年記念行事（豊川稲荷と三谷温泉） 	<ul style="list-style-type: none"> ●松井秀喜 Yankees 入団 ●貴乃花引退 ●テレビ放送50年 ●コロンビア墜落事故 ●人間の長寿遺伝子を発見 ●故手塚治虫の代表作「鉄腕アトム」の誕生日（4月7日）
2004 (H16)	<ul style="list-style-type: none"> ●本社工場にて国土交通省タイプ河川護岸吸い出し防止シートの製造開始 ●北海道工場25周年 ●北海道工場に於いて経営改善会議（12月14日～15日）PH 	<ul style="list-style-type: none"> ●新潟県中越地震（M6.8）発生 ●北朝鮮拉致被害者の家族が帰国 ●参院選で民主党が躍進 ●プロ野球では近鉄とオリックスが合併、楽天参入 ●アテネ五輪で日本大活躍 ●イチローが大リーグシーズン最多安打更新（262安打）
2005 (H17)	<ul style="list-style-type: none"> ●サイザル麻床磨きパッドの生産が軌道にのる（平成14年生産開始・共同特許申請） ●アルファオブジャパン創立10周年 ●就業規程改訂（4月1日） ●新会社法施行に伴い定款の一部を変更（5月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●衆院選で小泉首相の自民党が歴史的な大勝 ●尼崎でJR西日本脱線事故 ●マンションなどの耐震強度偽装発覚 ●郵政民営化法が成立 ●愛知県で『愛・地球博』開催
2006 (H18)	<ul style="list-style-type: none"> ●定款一部変更（会社法施行に伴い） ●中小企業再生協議会支援はじまる 	<ul style="list-style-type: none"> ●安倍政権が発足 ●トリノ五輪で荒川静香が金メダル ●北朝鮮が地下核実験実施 ●原油価格高騰（一時1バレル=78ドル） ●サッカーW杯 イタリア優勝
2007 (H19)	<ul style="list-style-type: none"> ●全体安全研修スタート（5月24日） ●本社に貫流ボイラー設備を3基新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●参院選で自民党が歴史的な惨敗 ●安倍首相が突然退陣、後任に福田氏 ●『消えた年金』で社保庁に怒り沸騰 ●米サブプライム問題で世界の経済・金融に混乱 ●原油価格高騰（一時1バレル=99ドル）
2008 (H20)	<ul style="list-style-type: none"> ●東洋クッション(株)創立55周年（4月） ●製造2課（II AN）にてライン会議実施 ●(株)東伸、東洋クッション(株)の東伸工場となる ●北海道工場フェルトラインに大型上下打ちニードルパンチ機設置 ●普段の感謝の気持ちを込めて誰に『ありがとう』の気持ちを伝えたいですか（平成20年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●福田首相突然退陣、後任は麻生氏 ●景気後退、株価急落、円高騰 ●後期高齢者医療制度スタート ●米国発の金融危機が拡大、世界不況に ●第44米大統領に民主党オバマ氏 ●中国四川省で大地震
2009 (H21)	<ul style="list-style-type: none"> ●一ツ屋区画整理組合の解散に伴い換地終了 ●製造2課（II AN）に加えフェルト（II AR、北海道）でもライン会議実施 ●北海道工場30周年記念研修会（9月11日～12日） ●100年に一度の大不況の中、あなたは何を求めますか。（平成21年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●衆院選で民主党圧勝、政権交代で鳩山政権誕生 ●裁判員裁判がスタート ●事業仕分け開始 ●WBCで日本連覇 ●米自動車大手GM、クライスラーが経営破綻 ●歌手のマイケル・ジャクソンさん急死
2010 (H22)	<ul style="list-style-type: none"> ●社内一斉全体清掃の取組スタート（1月） ●アルファオブジャパン創立15周年 ●製造2課（II AN）・フェルト（II AR、北海道）に加え製造1課（II AS）・製造5課（II AG）に於いてもライン会議実施 ●北海道工場に貫流ボイラー設備新設 ●II AN製造ライン改造 ●“素直”この言葉を聞いてあなたは何を感じますか。どう思いますか。（平成22年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突 ●参院選で民主党が大敗、ねじれ国会に ●小惑星イトカワから「はやぶさ」が帰還 ●チリ鉱山落盤事故、69日ぶりに作業員全員を救助
2011 (H23)	<ul style="list-style-type: none"> ●トーヨークッション・ランカ（PVT）ワサバジャヤセセラ社長 来社（10月22日） 	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災（M9.0）発生（3月11日）と東電福島第一原発事故

●さくら色の項目は年度の標語

年	当社のあゆみ	社会の出来事
2011 (H23)	<ul style="list-style-type: none"> ● 進行交代制全体朝礼スタート ● 全ラインにてライン会議実施（土木関連とフィルター関連に分かれて実施） ● 火災訓練（Ⅱ AS・Ⅱ AN）火災発生時の行動マニュアル作成 ● 汚水処理機新設 ● 『東日本大震災に思う』大地震、大津波に「知った事」「思った事」「知った言葉」（平成23年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野田内閣誕生、TPP交渉参加表明 ● サッカー女子W杯、なでしこジャパン世界一 ● 政府要請で浜岡原発停止 ● タイで大洪水、日本企業操業停止
2012 (H24)	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社工場舗装補修 ● Ⅱ AS製造ライン インバーター化完了 ● 「今年あなたが1番感じた言葉はなんですか」（平成24年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山中教授がiPS細胞でノーベル生理学・医学賞受賞 ● 東京スカイツリー開業 ● ロンドン五輪、史上最多のメダル38個 ● 金環日食、国内で25年ぶり観測 ● 尖閣諸島国有化で日中関係悪化 ● 師走の衆院総選挙
2013 (H25)	<ul style="list-style-type: none"> ● 白石美千代専務が九代目取締役社長に就任、平井美代子社長が取締役会長に就任 ● 東洋クッション(株)創立60周年 ● 創立60周年記念行事（本社・北海道合同東京旅行）実施 東京スカイツリー・浅草寺において祈願（4月12日～13日） ● パームライン火災訓練（10月28日） ● 共英産業、ドレイン工業取引開始 ● 本社 引張試験機新設 ● 「60周年を迎えて」あなたの抱負は（平成25年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定 ● 富士山が世界文化遺産に決定 ● 衆院選で自民、公明両党が過半数獲得、ねじれ解消 ● 安倍首相、TPP交渉参加を表明 ● 楽天が初の日本一 ● 猛烈な台風がフィリピン直撃、死者・行方不明者約8,000人
2014 (H26)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日建工学(株)50周年式典出席（ホテルオークラ於） ● ものづくり中小企業支援補助金による生産ライン強化（Ⅱ AS、Ⅱ AR、Ⅱ AG、北海道工場） ● 本社変電所設備新設（1月31日） ● ⅡAL（エステルライン）撤去、第三工場改築、旧ボイラー室撤去、第三倉庫増設 ● 北海道 引張試験機新設に伴う事務所改修工事・樹木剪定 ● 北海道工場35周年 ● 「心身共に健康で暮らすためには」（平成26年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 御嶽山噴火で死者57人、行方不明者6人 ● 消費税8%スタート ● 赤崎勇、天野浩、中村修二の3氏が青色LEDでノーベル物理学賞受賞 ● 全米テニスで錦織圭が準優勝 ● エボラ出血熱でWHOが緊急事態宣言 ● 世界文化遺産に「富岡製糸場」
2015 (H27)	<ul style="list-style-type: none"> ● パームライン火災訓練（11月25日） ● 深谷純が取締役に就任（8月21日） ● Ⅱ ANライン ラテックス吹付周辺の土間改修 ● Ⅱ AGライン第一次制御盤改良① ● あなたにとって『安全』とは何ですか（平成27年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 北陸新幹線開業 ● 日経平均株価 15年ぶりに終値で2万円台回復 ● 選挙権18歳以上 参議院で可決 ● 「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産登録 ● 記録的大雨で鬼怒川決壊 ● バリ同時多発テロ ● 大村智氏が感染症予防イベルメクチン開発でノーベル生理学・医学賞受賞 ● 梶田隆章氏がニュートリノ振動発見でノーベル物理学賞受賞 ● 日本郵政グループ3社が上場
2016 (H28)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新分野【壁面緑化】の生産はじまる ● 北海道台風被害による河川復旧工事始まる（約3年間） ● 中部産業連盟経営改善指導 ● 社内（工場内）敷地内全面禁煙（10月31日～） ● 北海道工場高圧変電設備・新設 ● 北海道フォークリフト購入（11月30日） ● あなたにとって『正直』とは何ですか（平成28年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● マイナンバー制度スタート ● マイナス金利導入 ● リオ五輪開催 ● イチロー・日米通算4,257安打達成 ● 熊本地震（M6.5）発生 ● 伊勢志摩サミット開催 ● 大隈良典氏がオートファジーの解明でノーベル生理学・医学賞受賞
2017 (H29)	<ul style="list-style-type: none"> ● “健康宣言” 取り組み ● 屋上ソーラーパネル設置 ● 裁断1階 床の改修、機械レイアウト変更（1階3階で作業実施） ● Ⅱ AGライン第二次制御盤改良② ● 北海道工場アスファルト舗装全面改修 ● あなたにとって『達成』に対する心意気を書いて下さい（平成29年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ● トラUMP米大統領就任 ● 藤井聡太4段が29連勝 ● カズオ・イシグロ氏が『日の名残り』でノーベル文学賞受賞 ● 桐生祥秀が100m9秒台 ● 家計学園、森友学園問題発生 ● 大谷翔平エンジェルス入団
2018 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> ● 65周年記念行事（北海道工場に於いて全従業員の研修会）実施（岩見沢・富良野・美瑛・層雲峡・黒岳 6月7日～8日） ● 名南経営 経営指導 	<ul style="list-style-type: none"> ● 羽生結弦 フィギュア男子平昌オリンピックで2連覇達成 ● 北朝鮮が対話路線へ急転換（南北首脳会談） ● 7月西日本豪雨発生。9月関西中心に台風21号猛威

●さくら色の項目は年度の標語

年	当社のあゆみ	社会の出来事
2018 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> ●第5工場（II AGライン）床全面改修工事 ●北海道工場エントランス（門および外溝工事）改修 ●北海道工場 配合台設置 ●北海道出張（10月18日～20日）富良野・旭岳 経営改善会議 ●あなたにとって『知る』とは、どういう事ですか（平成30年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道胆振東部地震（M6.7）発生（全道停電 大規模ブラックアウト） ●サッカーロシアW杯 フランス20年ぶり優勝（日本、決勝トーナメント進出） ●大坂なおみ全米オープンテニス優勝（四大大会日本人初優勝） ●本庶佑氏ががん治療薬「オプジーボ」開発でノーベル生理学・医学賞受賞 ●築地市場が豊洲へ移転
2019 (H31) (R1)	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社アルファオブジャパンを親会社としたホールディングス化の実施 ●II ANライン 2階の作業効率化改良実施 ●II ASライン 集塵機防音工実施 ●第七工場への通路床改修工事実施 ●本社 電気関連全面改修実施 ●北海道工場 VSモーターインバーター化・電気関連全面改修実施 ●榊原知子が取締役に就任（9月1日） ●あなたは『聞く』事によって何を感じ、何を知りますか（平成31年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●天皇陛下が即位。『令和』に改元 ●ラグビーW杯日本大会開幕、日本8強 ●京都アニメーション放火、36人死亡 ●消費税率10%スタート ●東日本で台風大雨被害、死者90人越え ●旭化成名誉フェロー吉野彰氏がリチウムイオン電池でノーベル化学賞受賞 ●沖縄・首里城が焼失 ●ゴルフ渋野日向子が全英女子V / テニス大坂なおみが全豪オープンV ●マリナーズ イチロー引退 ●2019年11月中国武漢より新型コロナウイルス発生 ●2020年には全世界に流行し経済的にも影響大（コロナショック、コロナ危機）
2020 (R2)	<ul style="list-style-type: none"> ●本社⇄北海道工場Web会議スタート ●東洋クッションSDGsの達成に向けて取り組む事を宣言 ●本社防災リスク調査・改善実施 ●コロナによる全社員。来客者への消毒開始 ●VR用温水ボイラー更新 ●クランプフォークリフト2号機新車購入 ●『致知』 致→一致団結の致、知→何でも知る事で人生あり ●『致知』に対して思う事を書いて下さい（令和2年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●菅首相就任 ●新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言を発令 ●九州豪雨発生 ●将棋の藤井聡太七段が最年少タイトル獲得 ●英国、EU離脱 ●テニス、大坂なおみが全米初V ●スマホ5G時代本格化
2021 (R3)	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量算定と削減目標を設定 ●海外からの原料輸入の管理システムの改革 ●社内DX化始動 ●北海道工場製品計量システム新設 ●II ASライン熱媒ボイラー新設 ●本社第二工場屋根塗装工事実施 ●深谷伸が取締役に就任（8月28日） ●コロナ禍において思う事、考えた事（令和3年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●岸田首相就任 ●大谷翔平、メジャー MVPに ●東京五輪開催 ●新型コロナワクチン接種開始 ●ゴルフ、松山英樹がマスターズ初V ●熱海で土石流発生 ●真鍋淑郎氏が地球温暖化を予測する地球気候モデルの開発でノーベル物理学賞受賞 ●バイデン米大統領就任
2022 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> ●社内車両運行アルコールチェック始まる ●東洋クッション、アルファオブジャパンのホームページ大幅リニューアル ●大府市初期消火競技会参加 ●東洋クッション、アルファオブジャパンの販売管理システムリプレイス実施 ●II ASホットプレス機、オーバーホール実施 ●本社、北海道工場LED照明を設置 ●『ウクライナ危機を皆さんはどう考えますか?』（令和4年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●安倍元首相撃たれて死亡 ●円安が進む。1ドル=150円台に ●ロシアがウクライナに軍事侵攻 ●エリザベス英女王死去 ●新型コロナウイルス猛威続く、感染者2,000万人超え ●サッカー W杯日本代表16強入り ●北京冬季五輪開催
2023 (R5)	<ul style="list-style-type: none"> ●東洋クッション創立70周年式典を本社、北海道工場合同で行う ●大府市支援による省エネ診断に応募し、省エネ設備設置の一環としてスクリーコンプレッサーを第一工場に設置 ●電力のデマンド管理および保安業務を委託し、将来に向けての電力節約を図る ●ポストコロナに向けて、さあ、あなたはどう行動しますか?（令和5年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス「5類」へ引き下げ ●WBC日本優勝 ●日銀総裁、黒田東彦氏から植田和男氏に交代

東洋クッション株式会社

70年のあゆみ since 1953

2023年9月発行

発行

東洋クッション株式会社

〒474-8642 愛知県大府市追分町2丁目1番地

TEL 0562-47-2151

編集・制作

株式会社出版文化社

名古屋・金山 東京・日本橋茅場町 大阪・本町

印刷・製本

亜細亜印刷株式会社

© 2023 Toyo Cushion Co., Ltd. Printed in Japan

記事・写真の無断引用、転載を禁じます。

